

## 下仁田町「街なか活性化事業」第3回検討委員会 議事録

- 日時 令和5年3月14日（火） 18時30分～19時50分  
場所 下仁田町役場302会議室  
出席者 検討委員 14名（3名欠席）  
次第 1. 開会  
2. あいさつ  
3. 議事  
（1）これまでの実施内容  
（2）街なかの活性化事業基本計画（素案）  
（3）第3回分科会で出た意見・感想  
4. 意見交換  
5. 閉会

### ■検討委員会の様子



### ■意見交換の内容（主な意見、感想）

- ・基本計画はよくまとまっていると思う。特に、検討委員会だけでなく高校生や住民等あらゆる世代の方たちの意見に耳を傾けたことで、町の課題がうまくまとまった。その分、確実に実行することが大事だし、自分事とすることが必要。これをみんなで共有し、作り上げていかなければ成功に結び付かない。色々な意見があると思うが、すべてを前向きに考え、建設的な形で今後も皆さんの話を伺っていきたい。
- ・下仁田町をどのような形で発信し、外部から人を招き入れるのが重要だと思う。
- ・下仁田高校でも「どのように外部から人を招き入れるか」を生徒に考えさせ、提案させる取組みを行っている。これに関して、先日、県内の高校生とその家族を対象にアンケート調査を実施した。ねぎとこんにやくの知名度は非常に高いが、下仁田町の食事にまで知名度が結びついておらず、もった

いないと感じた。

- ねぎ料理は、すき焼きや鍋が王道だが、揚げ物やドリンクにも使っている。ねぎとこんにやくを使った生パスタを提供している飲食店もあるが、情報発信が不十分。PRの観点でいくと、例えば、ネギ農家と飲食店組合で「メニュー開発ワークショップ」をしてみても良いと感じた。
- 10年ほど前に「下仁田かつ井の会」が出来て、昭和初期から地元にあったかつ井が有名になっている。ねぎとこんにやくは、元々ブランド力があるので、かつ井のように掘り起こしが出来ると思う。
- 来訪者から土日はお店が混んでいて入れない、お店が閉まっていたなどの声があるが、それは事実。提供能力が低下していて、さばき切れていない。法事が入っていたりすると、対応できない。受け入れ態勢に問題がある状況。
- 計画を実行するにあたり、事業の優先順位を出していった方が良いと思う。街なかの飲食店の店主も高齢化してきている。既存の飲食店に頼る部分、新規飲食店に頼る部分など、踏み込んだ議論が必要だと思う。
- 街なかの商店も数が減ってきているが、現状、何ができるのかをみんなで考えながらやっていければと思う。前に進みたいが、どうしたらよいか分からないというのが本音。イベント等については、協力できそう。
- 金融機関にいと、店主の高齢化、跡継ぎ問題で困っているなどの相談がある。事業承継専門の職員がいるので、連携してやっていきたい。
- 下仁田ならではの体験は重要だが、「こんにやく手作り体験」はコロナ前から減少傾向が見られた。飽きられてしまっている可能性もあり、原因を解明しなければならない。食育だけでなく、地域資源も学べるように参加者の「知識欲」を満たすような取組みが必要だと考えられる。
- 計画はよく考えられており、素晴らしいものができそう。計画は作ることが目的ではなく、実現することが大事。スケジュールをもう少し詳しく示して欲しい。せっかく作るならば、まずは一歩踏み出そう。やってみなければ分からない部分もある。
- 取組みを実施するのにあたり、時系列が重要だと感じる。短期的、長期的にそれぞれ何をするのか。短期的に何ができるのかを話し合っていく必要があるのではないかな。
- 国が観光に力を入れてきている。特にインバウンド系。令和4年度補正でも色々なメニューが出てきており、今回、観光協会としても申請している。採択されるかは分からないが、これを契機に国に対して下仁田町のやる気をアピールしていき、事業が採択されるように頑張りたい。

以上